

「社会的養護下にある若者の社会的孤立を防ぐための多機関連携による地域連携包摂システム構築事業」

応募申請団体一覧

公益財団法人ちばのWA地域づくり基金
(全4団体・順不同) 2021年2月24日公開

No.	団体名	所在地	申請事業名	申請事業概要
1	一般社団法人はこぶね	船橋市	こころをつなぐアフターケア事業～「あなたとともに(友)にいる」オトモダチ作戦～	<p>社会的養護下の若者には、「オトモダチ」が必要である。ただの友達ではなく、いつでも相談に乗り、信頼できる大人のトモダチ、つまり「オトモダチ」である。この「オトモダチ」が彼ら一人一人でき、施設退所後もずっと寄り添い続けて行けるよう社会包摂ネットワークシステムを構築する。</p> <p>「オトモダチ作戦」とは、施設入所中から子ども達と関係を作るためインケア活動を実施、居場所やイベントで関わる時間を増やし特定の子どもの心をつないでいく。その「大人のトモダチ」が彼らの「オトモダチ」として、退所後もかかわりを継続させていくための作戦である。</p> <p>この「オトモダチ作戦」を実行するためにはまず、各実行団体がこの作戦を熟知し、この作戦の共通理解と一致を図らなければならない。その上で、県内の児童養護施設へこの作戦への理解と協力を求めていく。さらに、各団体の持つネットワークをつなげ、彼らを信頼できる人の手から次の人の手につないでいくことで、彼らが社会からこぼれ落ちることを予防する。</p> <p>3年後には、県内の児童養護施設を退所する若者一人ひとりに信頼できる「オトモダチ」がおり、困った時に相談できる状態になる。</p>
2	ちば子ども若者アフターケアコンソーシアム (幹事団体：ちば子ども若者ネットワーク)	千葉市	ちば子ども若者アフターケアネットワーク	<p>千葉県内に在住する社会的養育経験のある若者が支援につながりにくいことや、特定の支援者が支援を抱え込まずるをえない状況にあることを解消するために、千葉県内の児童福祉施設や中核地域生活支援センターと連携しながら千葉県内のアフターケア標準化のためのネットワーク構築を目指す事業。</p> <p>①若者達のニーズや支援につながらない要因を把握するための調査研究 ②若者達に支援情報を届けると共に若者達の声を社会に届けるウェブサイト運営 ③アフターケアに携わる支援者間の連携体制を構築するためのネットワーク事業 ④若者達が制度枠組にしばられることなく気軽に立ち寄ることができ、問題が深刻化する前に支援につながれるようにするとともに支援者達や市民との対話、共創の拠点となる居場所事業(緊急対応としての短期シェルター機能ややり直しのためのステップハウス機能も予定)、</p>

				上記取組を支援者と若者との協働の中で実施していくことで、若者と支援者とのギャップや支援者の抱え込みを解消し、やがて千葉県内のどこでも標準的にアフターケアが受けられる地域社会を目指していく。
3	株式会社ベストサポート	千葉市	大人の TERAKOYA まなぶ！つどう！つなぐ！～ ぼくらはアシタに歩いていく	<p>【狙い】支援対象者には、心を寄せる場所とつながりが大切だ。これらをベースに社会で生きていく上で必要なスキルの習得を目指す。そのスキルは専門性が高く、習得することで自分に自信が生まれ、挑戦意欲が増し、「社会で生きていく」ためから、「豊かな人生を歩む」ための好循環を作り出す。また、彼らを支えることで、人手不足であえぐ業界を支え、地域経済の活性化につながる。</p> <p>1.社会的養護等により何らかの困りごとを抱えている若者に、スキルの習得と安心安全の為の居場所の提供をする。 2.社会的養護下の若者を支援し、社会で活躍する人材に育成し、世に排出し、人手不足等で困っている業界を活性化する。また、社会貢献活動に携わりたいと考えている企業と福祉をつなぐ。</p> <p>【ゴール】 1.県内の社会的養護等下の若者を支援する団体等とのネットワーク形成と連携 2.「大人のTERAKOYA」がある地域内のネットワーク形成と連携 3.社会的養護下の若者を受け入れる企業及び企業が加盟する中小企業団体とのネットワーク形成と連携 4.本事業終了後も本取り組みが自走する状態（収益化を狙う事業づくり）助成金等の多くは、事業期間の運営に集中し、出口戦略が乏しい。しかし、本事業の最も大切なところは「継続」である。継続の為の収益化を検討する。</p>
4	一般社団法人いっぽの会	松戸市	社会へ「いっぽ」を踏み出す基盤づくり事業 セルフマネジメント（正しくSOSを出せる力をつける）	<p>社会的養護下にある若者が社会で自立するために、①住居環境（シェアハウス等住まいの確保、生活力向上、メンタルケア等）②働く（職場開拓、就労支援プログラム、資格取得、フォロー等）これらをトータルに支援できる相談体制・コーディネート機能が必要である。民生委員等と繋がり、情報の共有・地域ボランティアとの協働で生活の体験・社会参加の体験を実施する。生活の体験としては、家事を地域のボランティアとの協働にて、家庭的な支援の中、精神面・生活習慣を整える。心身の安定が社会参加への意欲の芽生えの一因となる。社会参加の体験として、地域のボランティア活動や支援企業の助けにより、短期雇用に挑戦し社会への不安や経験不足、仕事が続かない等の不安を取り除く。人々との関わりにより、成功体験を重ねることが自己肯定感を高め、社会の一員であることを知る。地域から孤立した家庭がある中、現状、沢山の人の可愛がられ、色々な関係性や価値観に触れる機会や経験の少なさを、地域が関わり育てる社会としていく。そのためには、若者との関わりが大人達の理解を深め必要性を知る機会となる。</p>